



2021年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月15日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社エスユーエス
 コード番号 6554 URL <https://www.sus-g.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 公男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 浅田 剛史 (TEL) 075-229-7400
 四半期報告書提出予定日 2021年2月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第1四半期の連結業績(2020年10月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第1四半期	2,265	△1.6	△8	—	139	△32.7	96	△30.8
2020年9月期第1四半期	2,301	15.2	207	△8.4	207	△10.7	139	△12.1

(注) 包括利益 2021年9月期第1四半期 87百万円(△36.1%) 2020年9月期第1四半期 137百万円(△13.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第1四半期	10.92	10.43
2020年9月期第1四半期	15.88	15.05

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第1四半期	3,739	2,499	64.9
2020年9月期	3,978	2,472	60.1

(参考) 自己資本 2021年9月期第1四半期 2,425百万円 2020年9月期 2,389百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2021年9月期	—	—	—	—	—
2021年9月期(予想)	—	0.00	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の連結業績予想(2020年10月1日~2021年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,629	1.1	△160	—	88	△74.1	56	△74.0	6.44
通期	9,745	8.7	3△98.5	—	251	△38.7	160	△40.7	18.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2021年9月期1Q	8,811,600株	2020年9月期	8,784,400株
2021年9月期1Q	184株	2020年9月期	184株
2021年9月期1Q	8,805,149株	2020年9月期1Q	8,760,397株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に対する各種政策効果により、企業活動や経済活動に持ち直しの動きが見られましたが、国内外において感染者数が再度増加傾向にあるなど、依然として先行きは極めて不透明な状況が続いております。

このような中、当社の技術者派遣事業においては、IT分野、機械分野、電気・電子分野で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、稼働率が低下しました。一方で、採用広告費等を中心に販売費及び一般管理費は抑制いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,265,626千円（対前年同期比1.6%減）、営業損失8,002千円（前年同期は207,758千円の営業利益）、経常利益は雇用調整助成金の受給に伴い営業外収益が増加し139,787千円（対前年同期比32.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益96,175千円（対前年同期比30.8%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

① 技術者派遣事業

技術者派遣は、在籍技術者数が前年同期比で増加したことに加え、IT分野及び成長産業分野への取り組み強化により、派遣単価の向上にも努めてまいりました。一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により技術者派遣需要が停滞傾向の中、2020年4月入社の新卒技術社員及び既存技術社員の一部に契約獲得の遅れが生じており、稼働率は前年同期より低い水準で推移しました。また、取引先のテレワークの推進等もあり、残業時間が減少しました。

請負業務は、主にIT請負の取引が拡大したことに加え、製造請負においても、受注件数が堅調に推移しました。

これらの結果、技術者派遣事業の売上高は2,094,645千円（対前年同期比3.4%減）、セグメント利益は49,940千円（対前年同期比77.4%減）となりました。

② コンサルティング事業

システムコンサルティングサービスは、SAPをはじめとした既存の大規模基幹システムにおいてIT基盤の統合・再構築が企業の重要課題とされ、機能拡張やグローバル展開案件が継続して堅調に推移しました。このような中、当社が携わるクラウド系基幹システムであるSAP S/4 HANAを中心に拡大傾向となりました。こうした案件状況に対して、その需要に応えるべく、自社ITコンサルタントの育成及び増員に加えて協力会社の外注要員を活用し、チーム体制での対応を推進いたしました。

これらの結果、コンサルティング事業の売上高は141,931千円（対前年同期比21.1%増）、セグメント利益は8,943千円（対前年同期比14.6%増）となりました。

③ AR/VR事業

AR/VR事業は、AR（拡張現実）、VR（仮想現実）と言われる第4次産業革命に対応する取り組みとして、AR/VRクリエイターの育成、企業や教育機関が求めるAR/VRコンテンツやプラットフォームの販売及び開発等を目的に事業を行っており、VR動画の制作を中心に受注を獲得しました。また、2019年4月に設立した株式会社クロスリアリティ（連結子会社）において、2020年10月にVRIA京都（VRイノベーションアカデミー京都）が開校いたしました。

これらの結果、AR/VR事業の売上高は4,974千円（前年同期は実績無）、セグメント損失は62,787千円（前年同期は4,801千円の損失）となりました。

④ その他

AIマッチングソリューション「SUZAKU」は、受注件数が堅調に推移したことにより、売上高は前年同期比で増加しました。

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社である株式会社ストーンフリーの売上高は、就労移行支援事業の利用者が増加したこと等により、前年同期比で増加しました。

AI関連の取り組みを目的とするSUS Labは、受注獲得に向け、先行した開発費用が発生しました。

これらの結果、売上高は24,074千円（対前年同期比50.0%増）、セグメント損失は4,099千円（前年同期は16,306千円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は3,739,053千円となり、前連結会計年度末より239,132千円の減少となりました。流動資産合計は3,066,755千円となり、前連結会計年度末より160,032千円の減少となりました。これは主に現金及び預金が60,426千円減少、売掛金が37,096千円減少、未収入金を含むその他流動資産が71,058千円減少したことによるものであります。固定資産合計は672,298千円となり、前連結会計年度末より79,100千円の減少となりました。これは主に繰延税金資産を含む投資その他の資産が63,942千円減少したことによるものであります。

② 負債の状況

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は1,239,558千円となり、前連結会計年度末より266,501千円の減少となりました。流動負債合計は1,186,334千円となり、前連結会計年度末より261,590千円の減少となりました。これは主に未払金が272,813千円増加した一方で、賞与引当金が261,141千円、未払法人税等が125,507千円、未払消費税等を含むその他流動負債が147,754千円減少したことによるものであります。固定負債合計は53,223千円となり、前連結会計年度末より4,910千円の減少となりました。これは主にリース債務が4,165千円減少したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は2,499,495千円となり、前連結会計年度末より27,368千円の増加となりました。これは主に配当実施の一方、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、利益剰余金が34,685千円増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の連結業績予想につきましては、2020年11月13日に公表いたしました予想値から変更はありません。

当第1四半期連結累計期間の業績は、第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益において既に連結業績予想値を上回っておりますが、今後の新型コロナウイルス感染症の影響度が極めて不透明であり、業績に与える影響につきまして合理的な数値で試算することが困難であること、及び販売費及び一般管理費において第2四半期連結会計期間以降に費用発生ウェイトを高く見込んでいること等により、現時点で第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想の修正は行わない判断といたしました。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響は、2021年9月期は継続するものの下期以降段階的に回復する、という前提のもと、2021年9月期の通期業績予想を作成しておりますが、今後、各種情報収集に努め、業績予想に変更が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,932,485	1,872,058
売掛金	1,068,500	1,031,404
仕掛品	8,387	16,935
その他	217,447	146,388
貸倒引当金	△34	△32
流動資産合計	3,226,787	3,066,755
固定資産		
有形固定資産	249,512	234,822
無形固定資産	136,603	136,135
投資その他の資産	365,282	301,340
固定資産合計	751,398	672,298
資産合計	3,978,186	3,739,053
負債の部		
流動負債		
未払金	607,662	880,475
未払法人税等	132,729	7,221
賞与引当金	261,141	—
その他	446,392	298,637
流動負債合計	1,447,925	1,186,334
固定負債		
リース債務	26,235	22,069
資産除去債務	23,381	23,394
その他	8,517	7,759
固定負債合計	58,134	53,223
負債合計	1,506,059	1,239,558
純資産の部		
株主資本		
資本金	430,433	431,045
資本剰余金	526,078	526,690
利益剰余金	1,433,146	1,467,832
自己株式	△184	△184
株主資本合計	2,389,473	2,425,383
非支配株主持分	82,652	74,111
純資産合計	2,472,126	2,499,495
負債純資産合計	3,978,186	3,739,053

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2020年12月31日)
売上高	2,301,312	2,265,626
売上原価	1,629,066	1,825,964
売上総利益	672,246	439,662
販売費及び一般管理費	464,488	447,664
営業利益又は営業損失(△)	207,758	△8,002
営業外収益		
受取利息	5	4
助成金収入	1,520	156,311
その他	16	1,042
営業外収益合計	1,541	157,358
営業外費用		
支払利息	560	1,943
支払手数料	1,112	7,591
その他	—	33
営業外費用合計	1,673	9,568
経常利益	207,626	139,787
特別損失		
固定資産除却損	—	188
特別損失合計	—	188
税金等調整前四半期純利益	207,626	139,599
法人税、住民税及び事業税	994	1,036
法人税等調整額	69,393	50,929
法人税等合計	70,387	51,965
四半期純利益	137,239	87,633
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,837	△8,541
親会社株主に帰属する四半期純利益	139,076	96,175

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	137,239	87,633
四半期包括利益	137,239	87,633
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	139,076	96,175
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,837	△8,541

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	技術者派遣 事業	コンサル テイング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,168,034	117,223	—	2,285,257	16,055	2,301,312
計	2,168,034	117,223	—	2,285,257	16,055	2,301,312
セグメント利益又は損失(△)	221,062	7,802	△4,801	224,064	△16,306	207,758

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	技術者派遣 事業	コンサル テイング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,094,645	141,931	4,974	2,241,551	24,074	2,265,626
計	2,094,645	141,931	4,974	2,241,551	24,074	2,265,626
セグメント利益又は損失(△)	49,940	8,943	△62,787	△3,903	△4,099	△8,002

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「AR/VR事業」について量的重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。